

Secure Web GatewayのBrotli圧縮サポートの確認

内容

はじめに

このドキュメントでは、SSLインスペクションによってWebロードの問題を引き起こす可能性があるBrotli圧縮サポートが無効になる特定のSWGの制限について説明します。

バックグラウンド情報

Cisco Secure Web Gateway(SWG)でSSLインスペクション（HTTPS復号化）が有効になっている場合、主な制限は、SWGが現在Brotli圧縮をサポートしていないことです。この制限は、SSL復号時のコンテンツのエンコーディングヘッダーの処理方法に影響を与え、コンテンツの問題やWeb資産のロードが不完全になる可能性があります。

問題

実際、SWGがBrotliをサポートしていないため、プロキシはBrotli(br)を含むAccept-Encodingヘッダーを削除または変更します。その結果、サーバは、正しいapplication/javascriptの代わりにapplication/x-gzipなどの予期しないMIMEタイプで応答する可能性があります。このMIMEタイプの不一致により、ChromeのOpaque Response Blocking(ORB)などのブラウザセキュリティ機能がトリガーされ、コンテンツがブロックされて潜在的なセキュリティリスクが回避されます。その結果：

- Brotliで圧縮された資産は、SSL復号時にSWGで適切に処理または認識できません。
- プロキシがAccept-EncodingヘッダーからBrotliを削除すると、サーバは誤ったMIMEタイプのコンテンツを提供します。
- ブラウザがコンテンツをブロックするため、重要なWebアセットのロードが失敗します。

ソリューション

この問題を軽減するには、影響を受けるドメインのSSL復号化を「復号化しない」リストに追加することで、それらのドメインのSSL復号化をバイパスすることが推奨されます。これにより、MIMEタイプの不一致やコンテンツのブロックが防止されます。また、Cisco Secure Web GatewayはBrotli圧縮をサポートし、近い将来に最新のWebコンテンツのエンコーディングの処理を改善することが期待されます。

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)
- [その他のセキュアアクセスに関する文書](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。